インターナショナル・コースの夏季合宿

● インターナショナルコースの方向修整

「インターナショナルコース」は昨年４月から開設し、随時編入で対応しています。これまで、指導内容の中に国際バカロレア機構（IBO）の教育内容を大幅に取り入れて、海外留学にも資する形で構成してきました。広尾学園は現在のところ IBO の候補校ですが、まだ認定校ではありません。

ところが、現在在籍している生徒約 30 名の保護者の大半は、日本の大学とアメリカの大学の両方に進学の途が開ける教育内容を要望されています。つまり、英語で学びながら文部科学省の高校卒業資格と「良質のバイリンガル教育」を得ることを第一として、高校２・３年の学習にアメリカ式の TOEFL や SAT、さらには「Advanced Placement(AP)」の指導を加えていってほしいという声が多くあります。

このような状況から、学園では方向修整を試みております。IB の良い点（とくに MYP の内容）をできるだけ残しつつ、日本の学習指導要領の枠組みとアメリカの大学進学に備えた指導内容とを融合していくこと、また、国語力の高い生徒には「特進コース」の現代国語の授業に参加できるようにするなど、新しい試みも始めました。

海外の大学受験だけでなく、高校段階で再び海外赴任となりそうなご家庭もあります。私たちは、35 年前に“帰国子女受け入れ校第１号”に指定された時と同様、社会のニーズに応える責任を痛感しています。

英語補習校だより（14）
中学受験に役立たない？

最近、「帰国生の中学校入試に備える」という理由で、英語補習校をおやめになるケースが増えてきました。「入試はネイティブ教師の面接のみ」といった学校、さらには作文 / 小論文を英語で書かせる学校については、英語補習校に通っているメリットは充分にあるはずですが、そうした学校は限られているのも事実です。

また、広尾学園の国際生入試の受験資格に「帰国後 18 ヶ月以内」（つまり小学5年の6月以降の帰国であること）の条件が加わったことで、一般入試で受験しなければならなくなり、そのために塾に通い始める子供も少なくありません。

もちろん、帰国生といえども国語や算数の基礎学力は必要です。しかし、ネイティブ同然の英語の学力が受験勉強のために失われていくのは、余りにもったいないですし、既に英語でできあがっている知識構造までが浸食されていくことで、メンタルな面まで困難な状況に陥る子供も出てきます。

英語補習校は、日本語を学習言語として活用できるようになるまでの支援にも役立つものです。また、英語で思いきり話せる機会を与えることで、慣れない学校生活へのストレスを解消させ、また学習への自信・意欲を回復させることもできます。

とりわけ受験勉強の不安な毎日を送る子供たちには、貴重な場といえるでしょう。

http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm

小山　和智　（おやま　かずとも）
広尾学園中学校高等学校　国際担当
（前、順心女子学園）

海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/

広尾学園中学校高等学校
（前、順心女子学園中学校高等学校）
〒 106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14
TEL. 03(3444)7271　FAX. 03(3444)7192
www.hiroogakuen.ed.jp

共学化 2 年目で 600 人もの新入生を迎え、いくつかのプログラムの修整がありました。帰国生は変更内容に注意してください。

英語補習校が、子ども達の英語力の伸張だけではなく、帰国適応にも大きな力になるという意義を、保護者の皆さんにはぜひ理解していただきたいですね。適応が出来てこそ、受験・進学が出来るのですから。